

相馬市

そ
う
ま
し

海と緑と歴史

受け継ぐ人々と繋ぐ伝統





大洲松川ライン

鵜ノ尾岬トンネルから磯部地区へと伸びる直線5kmの道路は太平洋と松川浦を両側に望むことができる絶景スポットです。日本の渚・百選にも選ばれています。

すみきった風。鮮やかな緑。紺碧の空。
自然美あふれる相馬で、華やかな歴史が自然とともに
息づいて過去から現在の空間をやさしく包んでくれます。



相馬野馬追

前日（5月最終金曜日）

あんぜんきがんさい

① 安全祈願祭

祭の前日、相馬中村神社で御鳳輦（ごほうれん＝神輿）に従って出陣する宇多郷の騎馬武者が打ち揃い、安全祈願祭が行われます。



（相馬市・相馬中村神社）

一日目（5月最終土曜日）

しゅつじんしき

② 出陣式

総大将の訓示に続き、相馬の国歌とも言われる「相馬流れ山」の合唱で締め、騎馬武者は総大将の閲兵を受け、出陣に向けて隊列を整えます。



（相馬市・相馬中村神社）

一日目（5月最終土曜日）

くだ

③ お繰り出し

相馬中村神社の御鳳輦と総大将を擁する宇多郷勢が陣螺と陣太鼓の音を合図に大手門から繰り出し、市内を一巡して北郷陣屋（南相馬市鹿島区）へ向かいます。



（相馬市・大手門）

二日目（5月最終日曜日）

かっちゅうけいば

④ 甲冑競馬

正午、陣螺、陣太鼓が鳴り響くと兜を脱ぎ、白鉢巻を締めた若武者が、先祖伝来の旗指物（はたさしもの）をなびかせ、人馬一体となり風を切り疾走する勇壮な甲冑競馬が行われます。



（南相馬市・雲雀ヶ原祭場地）

一千有余年の歴史を経て、今なおいきづく

「伝統の祭」

二日目（5月最終日曜日）

⑤ 神旗争奪戦

午後一時、相馬野馬追の最大の呼びもの神旗争奪戦の熱戦が繰り広げられます。空高く打ち上げられた御神旗を数百の騎馬武者が奪い合う姿は圧巻です。



（南相馬市・雲雀ヶ原祭場地）

二日目（5月最終日曜日）

⑥ お上がり

総大将および宇多郷勢は神旗争奪戦の半ばで帰路につきます。相馬市街地手前で、お上がりの行列を整え、城跡内の相馬中村神社に戻り、御鳳輦を本殿に安置します。



（相馬市・市街地）

三日目（5月最終月曜日）

⑦ 野馬懸

白鉢巻に白装束をつけて身を淨めた御小人（おこびと）と呼ばれる者たちが、竹矢来の中で荒駒を素手で捕らえ神前に奉納します。



（南相馬市・相馬小高神社）

福島県の相馬地方で三日間にわたって行われる国の重要無形民俗文化財の「相馬野馬追」は、むかし平将門が原野に放してあった野馬を狩り集め、氏神に神馬として奉納したことに由来すると言われていました。野馬追のスタートが総大将の出陣式。相馬中村神社を舞台に行われ、勇壮華麗な戦国絵巻の季節を告げます。古式豊かな甲冑に身を固めた騎馬武者の心は、一千有余年受け継がれてきた相馬の「武風」に満ちています。相馬氏は元来、下総（現在の千葉県）を本拠にいましたが、元享三年（1323年）頃、重胤の時に相馬地方に移住しました。武家社会が続いていく中であって、相馬氏が一度も国替えしないで繁栄してきたことは、全国でも珍しいと言われていました。戦国時代、相馬藩は隣国に62万石伊達藩を控えていました。僅か6万石の相馬藩が、伊達藩にひけをとらなかったのは、野馬追により、軍備の充実はもとより、日常の礼儀作法から学問に至るまで、精神修養を怠らなかつたためです。相馬藩に対して、伊達政宗は「われ、敵を討ってほとんど意に任せざるなし。ひとり相馬は小敵といえど服し難し！」と評したと言われています。

潮風がやさしく旅情を誘います



文字島



松川浦棧橋



相馬市尾浜字追川

平成7年3月に完成した相馬の名所「松川浦大橋」（長さ520m）。尾浜地区と磯部地区を結ぶこの大橋は、スレンダーな美観が特徴。交通の要所にプラスして、相馬のシンボルとなっています。夜になると時間帯によって色を変えながらライトアップされ、昼間とは違った装いを見せます。

松川浦大橋



鵜ノ尾埼灯台

太平洋の果てしない荒波に削られた断崖にそびえる、白亜の灯台です。令和5年には、日本財団「海と日本プロジェクト」の取り組みのひとつとして、日本全国の灯台を擬人化し、各地の灯台の魅力を広げることを目的とした「灯台擬人化プロジェクト」で鵜ノ尾埼灯台が擬人化されました。

相馬市尾浜字松川



燈の守り人



原釜尾浜海水浴場

「日本の水浴場88選」に選ばれた福島県内では有名な海水浴場です。遠浅で波が穏やかな海岸として知られ、毎年、多くの海水浴客で賑わいます。周辺は、海浜公園として整備され、人工磯、釣り桟橋、東屋などがあり憩いの場所となっています。令和2年には、ビーチバレーのプロ選手である西村晃一氏が監修をした「尾浜ビーチバレーボール場」がオープンしました。常設コート4面のほかに仮設コートを貼るスペースも十分あるため、国体予選などの公式戦も行われています。

◎相馬市尾浜字須賀畑



カゲスカ海岸

うのおみさき
鵜ノ尾岬と堤防に囲まれた湾状の

ビーチであるカゲスカ海岸は潮風に吹かれてのんびり過ごすのに絶好の場所です。カゲスカ海岸からは鵜ノ尾埼灯台を見ることが出来ます。また、パワフルな波が楽しめることからサーフィンスポットとして人気の海岸です。

◎相馬市尾浜字松川



尾浜こども公園

東日本大震災からの復興のシンボルとなる施設として整備されました。大きな風車をデザインした滑り台などの屋外遊具（10種類）のほか、サッカーコート1面分の芝生広場や、雨の日でも遊べるエアトラックなどの遊具を備えた「尾浜交流館」などが設置されています。

◎相馬市尾浜字北ノ入140
☎0244-3211732

心ゆくまでからだを動かす



相馬ハジもドーム

子どもたちが安全な環境でのびのびと運動をするための屋内施設です。約10000㎡の人工芝が敷かれており、子どもの遊び場としての利用をはじめ、野球やサッカーなどの練習で利用されています。野球用バットやバドミントンラケットなどのスポーツ用具も無料で貸し出しています。

☎相馬市光陽4-2-5
☎0244-35-4254

相馬光陽ソフトボール場

相馬光陽ソフトボール場は、福島県内でも数少ない外野面に天然芝が張られた球場を4面有し、公式ソフトボール競技の公認規格をもった施設です。3月から11月の間、使用することができます。

☎相馬市光陽4-2-5
☎0244-35-4254



相馬光陽パークゴルフ場



パークゴルフ場

相馬市には、東日本屈指の規模を誇る「相馬光陽パークゴルフ場」と福島県最初の国際公認コースである「松川浦パークゴルフ場」があり、どちらのパークゴルフ場もボール、クラブのレンタルを行っていますので、誰でも手ぶらで気軽に楽しむことができます。

『相馬光陽パークゴルフ場』

相馬光陽パークゴルフ場は、敷地面積118・776㎡（東京ドームの約2・5倍）、9コース81ホールの実際公認コースです。平坦な初級者向けのコースから高低差のある上級者向けのコースまで、レベルに合わせて楽しむことができます。

☎相馬市光陽4-2-5
☎0244-26-8009

『松川浦パークゴルフ場』

松川浦パークゴルフ場は、松川浦を一望しながら楽しめるパークゴルフ場です。4コース36ホールの国際公認コースで、心地よい潮風を受けながらコースでプレイできます。

☎相馬市岩子字長谷地10-1
☎0244-36-4355



相馬光陽サッカー場

相馬光陽サッカー場は平成23年7月にオープンしましたが、平成23年10月に国際サッカー連盟（FIFA）並びに日本サッカー協会（JFA）の東日本大震災復興支援事業として、スプリンクラー設備を備えた天然芝コート3面、人工芝コート1面を有するサッカー場として再整備されました。さらに、相馬市が人工芝コート1面、夜間照明設備（人工芝コート1面）、クラブハウス機能を有した「相馬市復興交流センター」を整備しています。相馬市は、冬は比較的温暖で積雪も少ないため年間を通して良好なピッチでサッカーをすることができます。

☎相馬市光陽3-3-1
☎0244-35-0127



角田公園テニスコート



テニスコート

『角田公園テニスコート』

角田公園テニスコートは、相馬駅から約1kmという良好な立地と、人工芝（砂入り）コートが8面あり、そのうち6面はナイター設備も備えているため、比較的大きな規模の試合会場にも利用されています。

☎相馬市北飯淵1-15-1
☎0244-35-5091

『相馬港テニスコート』

相馬港テニスコートは、相馬港の近くにあるテニスコートで人工芝（砂入り）コートが3面あります。海から近いいため潮風を感じながらプレイできます。

☎相馬市原釜字大津267
☎0244-35-5091

相馬港テニスコート





第一体育館内観（2階）



柔・剣道場



第二体育館内観

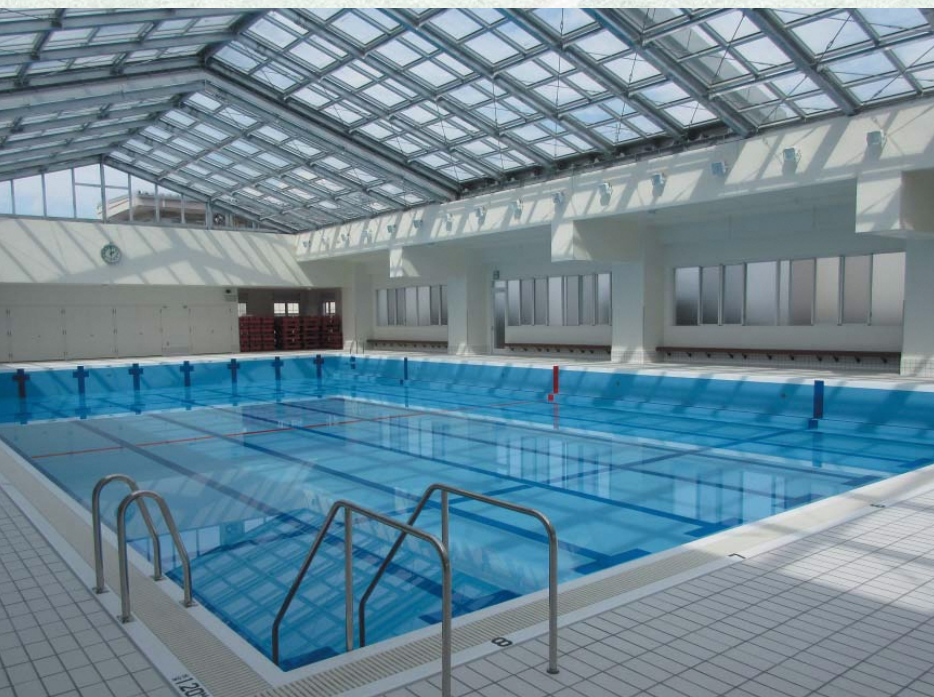


弓道場

スポーツアリーナそうま第一体育館の1階は、柔・剣道場と弓道場、2階は、約800㎡のアリーナとなつています。第二体育館は、国際競技連盟が公認する床材であるタラフレックスを使用しており、バドミントンコート4面分の広さがあります。

☎ 相馬市中村字北町55-1
☎ 0244-37-2309

スポーツアリーナそうま



開閉式のガラス屋根を採用し、太陽の熱エネルギーを利用した温水効果により、屋外プールと比べて、長期間（5月～10月）利用することができます。長さ25mの一般プールが8コースと水深50～60cmの幼児用プールが整備されています。

☎ 相馬市中村字桜ヶ丘54-2
☎ 0244-32-0021

相馬市民プール



相馬市初野射撃場

相馬市初野射撃場は、有害鳥獣対策を推進し、農作物被害の軽減等を図るため、老朽化して使われなくなったトラップ射撃場を再整備した施設です。アメリカントラップ射面が1面、ライフル射撃場が1棟あり、東北で唯一の移動標的射撃を楽しむことができます。開場期間は4月から11月の土日祝日です。

☎ 相馬市初野字栗原287
☎ 0244-37-2145（平日）
☎ 080-6049-1636（土日祝）

みちのく潮風トレイル

Michinoku Coastal Trail



マップ



環境省HP



みちのく潮風トレイルは、東日本大震災からの復興を目的として環境省が設定しました。環境省をはじめ、4県28市町村※に及ぶ関係自治体、民間団体、地域住民の協働により、青森県八戸市から福島県相馬市までの全長1000kmを超えるナショナルトレイルとして令和元年6月9日に全線開通しました。相馬市のルートは、相馬中村神社や中村村跡を通っており、城下町として栄えた相馬市の歴史と文化を巡るルートとなっています。みちのく潮風トレイル最南端の松川浦環境公園にはHead & Endを示すモニメントが設置されています。

※令和5年3月に宮城県角田市が新たに参画し4県29市町村にまたがるロングトレイルとなりました。



ふくしま浜街道トレイルは、福島県浜通りの13市町村が一体となり観光振興に取り組む「うつくしま浜街道観光推進会議」が事業主体となりコースを設定しました。福島県新地町からいわき市までの10市町をつなぐ全長200km超のふくしま浜街道トレイル沿岸ルートは令和4年10月30日に開通しました。内陸側の飯舘村、葛尾村、川内村についても今後、検討していく予定です。雄大でときに荒々しい太平洋を眺め、阿武隈山系に育まれた豊かな自然、自然に継承される歴史・営みを巡り、浜通りのありのままの魅力を感じることができ、浜通りの道になっています。相馬市のルートは、みちのく潮風トレイルの終着点である松川浦環境公園を進み、松川浦大橋を渡って大洲松川ラインを抜けていくルートになっており、松川浦の美しい景観を堪能することができます。

ふくしま浜街道トレイル



ふくしま 浜街道 トレイル



マップ



ふくしま浜街道トレイルHP

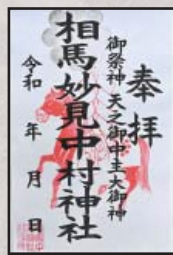


歴史への招待、ロマンの散策

相馬中村神社

相馬家代々の氏神として崇敬されてきた相馬中村神社は、中村城郭内の西方にある小高い丘に建っています。本殿・幣殿・拝殿は昭和58年に国の重要文化財に指定されました。建物の要所を塗り、彩色、飾金具で飾った、寛永建立の正統的なもので相馬地方を代表する建築です。

☎相馬市中村字北町140
☎0244-35-3363



御朱印



御城印



中村城(馬陵城)跡

相馬藩13代260年間6万石の居城として、明治維新まで続きました。自然の丘陵を利用した平山城で、本丸のまわりに二の丸、三の丸のほか岡田塁、円蔵郭、蓮池などを配し、堀や土塁を巧みにめぐらした堅固な城と なっています。現在では、大手門と土塁、石垣・濠などが残っており、往時を偲ばせてくれます。



赤橋



大手門

馬陵公園

馬陵公園は、浜通りを代表する桜の名所です。約600本の桜が一斉に咲き乱れる姿は圧巻です。花見客は、うららかな春の一日を思う存分楽しめます。



相馬神社

明治13年、相馬氏の祖、相馬師常もろつねを御祭神として、中村城本丸跡に創建されました。境内には、第17代当主が築城記念に植えたと伝えられている推定樹齢400年の藤があり、花期には参拝客の目を楽しませます。

☎相馬市中村字北町101
☎0244-35-3362



御朱印



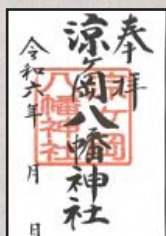
藤棚



涼ヶ岡八幡神社

建武年間（1334-1336）に創立され、元禄8年（1695年）に当時の相馬中村藩主である相馬昌胤まさたねによって現在の社殿および境内が整備されました。近郷でも群を抜く壮麗な宮殿で、当時は「相馬日光」と称されました。平成24年には、本社（本殿・幣殿・拝殿）、若宮八幡宮、亀齡社、隨身門、末社3社の7棟と宮殿6基、本社拝殿の扁額「八正宮」1面が国の重要文化財に指定されています。

☎相馬市坪田字涼ヶ岡51
☎0244-3614342



相馬市歴史資料収蔵館・郷土蔵

歴史資料収蔵館では、通史展示、御仕法、相馬野馬追、相馬駒焼、彫刻家・佐藤玄々の作品などを展示しています。郷土蔵では、農業や漁業、養蚕業で使われていた道具などの民俗資料が展示されています。

☎相馬市中村字北町51-1
☎0244-372191（収蔵館）
☎0244-321234（郷土蔵）



百尺観音

相馬出身の仏師・荒嘉明氏（昭和38年没）が諸国遊歴の後、生涯一仏一体を残そうと岩山を切り開き建立したのが、百尺観音（磨崖仏 百尺聖観世音尊像）です。未だ未完成で、現在、4代目当主・陽之輔氏が父祖の志を受け継いでいます。

☎相馬市日下石字高根沢686
☎0244-3512902



愛宕山史跡

相馬中村藩内子弟を教育し多くの俊才を輩出した金蔵院、第19代当主相馬忠胤ただねが武運長久を祈って建立した観音堂、出羽の名工上杉主殿頭作の地藏堂などの史跡があります。

☎相馬市西山字表西山



相馬駒焼

相馬駒焼は独特のひび焼きと走り駒の絵が描かれているのが特徴で、江戸時代には藩主の自家用や献上・贈答用とされました。



神狗（佐藤玄々作）

昭和20年に熱田神宮内の日本武尊神社の御神体として依頼された作品でした。元は木彫りの作品であり、展示されているものは同型の作品から石膏に型取りされたものです。佐藤玄々のもつとも代表的な作品は、「天女像あましろ」です。



昔と今をつなぐ ふるさと行事

桜まつり

桜の名所である中村城跡の馬陵公園で開催されるお祭りです。色鮮やかに咲き誇る満開の桜並木は圧巻です。祭り期間中は、ぼんぼりに照らされた夜桜も楽しむことができます。



相馬宇多郷神楽舞

相馬中村藩歴代藩主は、藩内の各郷に豊作や降雨をもたらす大雷神社を祀って、社前で五穀豊穡を祈り神楽を奉納するよう奨励したといわれています。宇多郷の郷社、大雷神社の神楽奉納は、当時の姿を守っていることから、平成4年に県の重要無形民俗文化財に指定されています。6月と9月に奉納が行われます。

相馬盆踊り大会

相馬盆踊り大会は、企業や市民グループ、子どもなどの団体などがそろいの浴衣や法被姿で参加し、相馬民謡同好会による相馬民謡「相馬盆唄」の生演奏にあわせて踊ります。踊りには毎年、夏合宿中の大相撲玉ノ井部屋力士らも参加し、祭を盛り上げます。

相馬ふるさとの行事

一月 どんと祭

二月 福節祭

四月 桜まつり

春まつり

五月 相馬野馬追安全祈願祭

相馬野馬追

六月 相馬宇多郷神楽舞

およごもり

八月 大瓜市

相馬盆踊り大会

諏訪神社例大祭

九月 涼ヶ岡八幡神社例大祭

相馬宇多郷神楽舞

相馬御神楽大会

十月 そうま市民まつり

十一月 相馬民謡全国大会

そうま市民まつり

毎年、秋に市民のひろば（市民会館駐車場）で開催されるそうま市民まつりは、市民によるフリーマーケットや地場産品の販売のほか、姉妹都市や友好都市の物産展などのテントが軒を連ね、多くのお客さんで賑わいます。また、特設ステージでは、各種団体によるステージイベントが披露されます。



26曲の相馬民謡

歌唱曲

相馬流れ山	相馬胴突（土つき）唄
相馬北方流れ山	相馬草刈唄
相馬二編返し	壁塗甚句
相馬北方二編返し	壁塗甚句（旧節）
相馬麦つき唄	原釜大漁祝唄
相馬麦つき唄（古調）	相馬田植唄
羽黒節	相馬田の草取唄
相馬馬子唄	相馬さんさ時雨
相馬甚句	相馬長持唄
浜甚句	神長老林節
相馬節	相馬木挽唄
相馬節（旧節）	相馬盆唄
新相馬節	相馬盆唄（古調）



相馬民謡全国大会

「相馬盆唄」「相馬流れ山」「新相馬節」「相馬二編返し」「壁塗甚句」をはじめとする民謡のふるさと相馬。6万石の小藩ながら藩主は常に武を練り祭りを盛んにし、藩民のために住みよい明るい藩政を施したことを称賛した唄が数多く残されています。このようにして長い歴史に育まれ伝承されてきた26曲の相馬民謡の中から出場者が唄う曲を選び自慢ののどを披露します。

相馬盆唄

ハアーイヨー 今年や豊年だよ
（ハアコーリヤコリヤ）
穂に穂が咲いてよヨー
ハアー 道の小草にも
ヤレサナ 米がなるヨー
（ハアヨーイヨーイトナ）
ハアーイヨー そろたそろたよ
（ハアコーリヤコリヤ）
踊子がそろたヨー
ハアー 秋の出穂より
ヤレサナ よくそろたヨー
（ハアヨーイヨーイトナ）
ハアーイヨー 踊りつかれて
（ハアコーリヤコリヤ）
寝てみたものヨー
ハアー 遠音雑子で
ヤレサナ 寝つかれぬヨー
（ハアヨーイヨーイトナ）

福節祭

相馬神社で節分に合わせ、無病息災・疫病退散などを祈願して開催されるお祭りです。神事後、原釜敬神部による神楽の奉納や豆まきが行われます。福を求めて多くの方が集まり賑わいます。



そうまの美味しいもん

福とら

親潮と黒潮が交わる豊かな海域を有する相馬沖で獲れる海産物は「常磐もの」の愛称としても知られ、全国の市場で高い評価を受けています。そんな相馬沖で近年、天然トラフグの漁獲量が大幅に増加しており、新たな冬の味覚として注目されています。サイズが35cm以上で、延縄漁で獲れたなど所定の条件を満たすトラフグが「福とら」と命名されブランド化されています。シーズンは10月から2月です。



浜焼き

新鮮なイカやカレイ、ホタテなどの魚介類を串に刺して炭火でじっくりと焼き上げる松川浦の名物です。焼きたての浜焼きは、魚介の旨みとタレの味が口いっぱいになり、まさに格別です。休日になると、松川浦には浜焼きを求めて多くの観光客が訪れます。松川浦の自慢の味をぜひ、ご賞味ください。



ホッキ貝

相馬沖では明治時代からホッキ貝の漁が行われており、長い間ホッキ貝の名産地として知られてきました。福島県はホッキ貝が生息するほぼ南限にあたります。そのため、相馬のホッキ貝は成長が早く、他の産地と比べて身が柔らかく、甘みが強いのが特徴です。地元ならではの食べ方として、ホッキ飯やホッキ味噌などがあります。その他にも、天ぷらや刺身で食べても格別です。



あおさ

松川浦のあおさは「ヒトエグサ」という種類で風味豊かな磯の香りと食感、旨みが魅力です。養殖用の海苔網を張るため、秋になると松川浦のいたるところに竹の杭が立ち並び、収穫の最盛期を迎える冬から春にかけて景勝地松川浦の上に鮮やかな青々とした海苔棚の絨毯が敷かれる風景が見られます。味噌汁、天ぷら、酢の物など、あおさの香りを活かした様々な料理で食べることができます。また、松川浦産のあおさを使用した海苔の佃煮もおすすめです。



そうま梨

独特な粘土質の土壌や太平洋からの海風によって運ばれるミネラルなどにより梨の甘さが増していくと言われていきます。8月中旬から11月中旬が旬の時期で幸水・豊水・あきづき・新高・新興などたくさん品種のおいしい梨が市場や直売所に並びます。



いちご狩り

和田観光いちご園では、章姫、さちのか、とちおとめなどのいちごをハウスで栽培しており、1月から5月にはいちご狩りを楽しむことができます。朝摘みの甘いいちごも販売していますので、お土産におすすめです。



☎ 相馬市和田市下柴迫94
☎ 0244-361-5535

相馬ブランド認証品

相馬市観光協会が認定している、相馬のお土産やギフトにおすすめなお墨付き商品です。2024年現在14商品が選ばれ、相馬を代表する認証品として登録されています。



そうまの思い出を持ち帰る



キッチンにつたき

道の駅とうまを拠点に相馬の食と観光の魅力発信を行う大食いアイドルもえのあずきさんが考案したメニューを味わうことができます。

※もえのあずきさんのメニューは季節によりお出しできない場合があります。

「相馬野馬道」の陣屋をイメージした造形が特徴的な道の駅です。地域の活性化と産業振興、情報発信の拠点として物産館を令和4年10月20日にリニューアルオープンしました。物産販売施設では、相馬市内で収穫された野菜や果物、相馬市を中心とした特産品、工芸品なども取り揃えています。物産販売施設に併設されている、「スイーツ販売 殿様ミルクスタンドSOMA」・レストラン「キッチンにつたき」では、地元の食材を使ったメニューを味わえます。

〒902-4437 相馬市日下石字金谷77-1
0244-37-3938



殿様ミルクスタンドSOMA

相馬家34代目当主相馬行胤^{みちたね}氏が営む牧場から取り寄せた牛乳とヨーグルトで作ったオリジナルソフトクリームが味わえます。

道の駅 とうま

浜の駅松川浦

東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた原釜地区に令和2年10月25日にオープンしました。相馬で水揚げされた新鮮な魚介類をはじめ、地元農産物や加工品、相馬市内の産品をメインに取り扱っています。施設内にある海鮮食堂「浜の台所 くあせつと」では、相馬の魚をふんだんに使用した地魚丼などのメニューを味わうことができます。

☎相馬市尾浜字追川196
☎0244-3211585



磯部水産加工施設直売所

磯部水産加工施設は、水産物の安定供給と水産物の早期本格操業を実現するために整備されました。相馬双葉漁業協同組合が直轄で運営しており、地元で獲れた新鮮な水産物を直営ならではのお得な価格で提供し、観光客や地元の方に親しまれています。相馬沖で獲れたヒラメ、カレイ、タコ、しらす、コウナゴ、ホッキ貝をぜひ、召し上がってください。

☎相馬市磯部字大迎1126
☎0244-3315226



和風造りのまち そうま

相馬市民会館

2階建てで、座席922席の大ホールのほか、リハーサル兼多目的ホールなどがあります。コンサートや発表会、講演会など幅広く利用されています。

☎相馬市中村字北町51-1
☎0244-3512426



相馬市防災備蓄倉庫

災害時に備えて毛布や水、米などを備えるほか、平常時には災害時相互応援協定締結自治体との地域間交流施設や防災教育研修施設としての役割も担います。相馬兵糧蔵とも呼ばれます。

☎相馬市坪田字宮東25



相馬市伝承鎮魂祈念館

震災によって失われた相馬市の原風景を後世に残し、遺族の心の拠所となるために建てられた施設です。震災前の原風景や震災の記録などを写真や映像で見ることが出来ます。

☎相馬市原釜字大津270
☎0244-3211366



相馬市千客万来館

千客万来館は、市内観光案内窓口である「相馬観光復興御案内処」と「相馬市観光協会」のスタッフが常駐し、市内観光情報の提供や宿泊案内を行っている観光交流施設です。

〒0244-2614 848
 相馬市中村字北町55-1



相馬野馬追の展示コーナー



マンホールカードを配布しています

受入人数：10名以上（団体のみ）
 （100名以上は要相談）

受入期間：通年（平日のみ）

休業日：土・日・祝・年末年始

所要時間：約2時間

料金：5,000円 / バス1台
 3,000円 / バス1台
 （相馬市内で昼食をとる場合）

無料 / バス1台
 （相馬市内に宿泊する場合）

オプション：震災語り部 3,000円 / 1団体（30名まで）
 （30名を超える場合は要相談）

お問い合わせ：相馬市観光協会

TEL 0244-35-3300

FAX 0244-35-3210



相馬市復興視察案内

震災、そして相馬の今の姿を知る。

ガイドがバスに同乗して、相馬市内を巡り、防災を学ぶツアーです。東日本大震災発生当時の相馬市の被害状況や今の姿を、映像を交えながら説明し、被害の多かった沿岸部、新たに建築された復興施設などをガイドがご案内します。

SOMA Access MAP

そうま アクセス マップ



相馬市が位置するのは、東北地方の最南端の県・福島県の太平洋側の沿岸部。人口は約33,000人。面積は197.7km²。福島県では、沿岸地域を浜通りと呼びますが、相馬市は浜通りの中でも北の方に位置します。

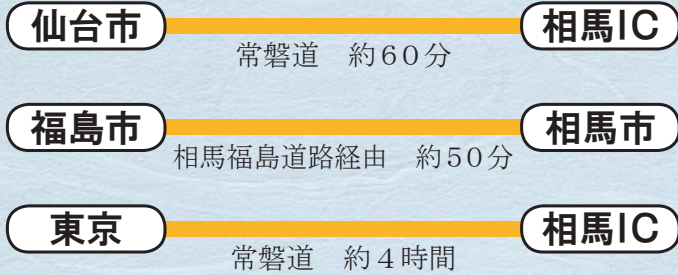


東北中央道（相馬福島道路）

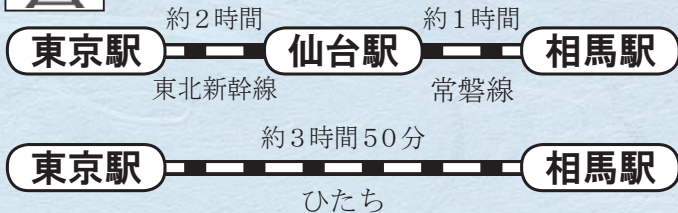
復興支援道路に位置づけられる東北中央自動車道（相馬福島道路）は常磐自動車道と東北自動車道を結ぶ約45kmの自動車専用道路（無料）です。この道路によって、アクセスが向上し、福島県内陸部及び山形県南部地方まで観光周遊圏が広がることで、交流人口が拡大され、観光振興による地域の活性化が期待されます。



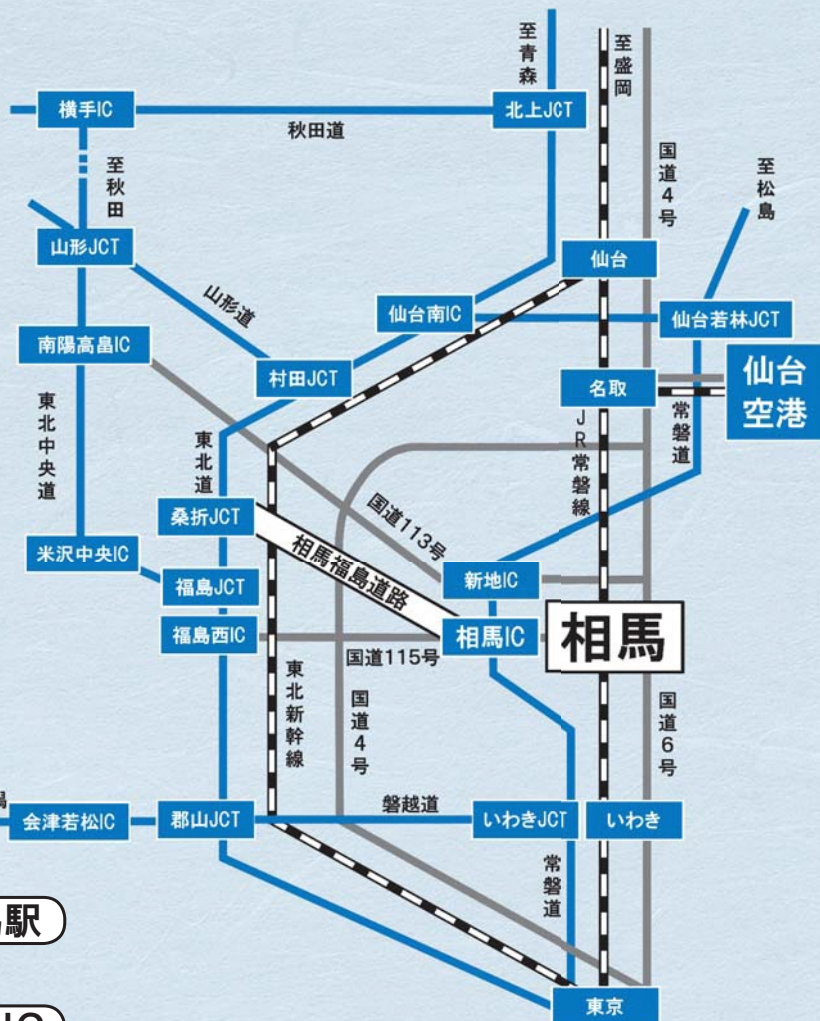
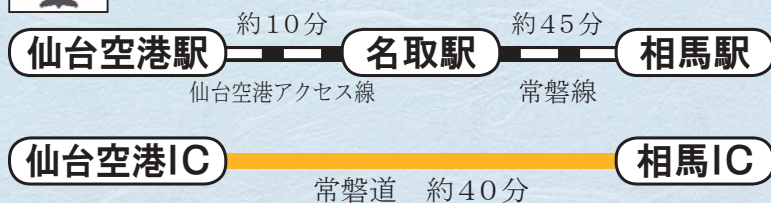
◇車をご利用の場合



◇電車をご利用の場合



◇飛行機をご利用の場合





相馬市千客万来館 〒976-0042 福島県相馬市中村字北町55-1

相馬市商工観光課

〒975-0042 相馬市中村字北町55-1

TEL 0244-26-4848

FAX 0244-26-4343

E-mail sg-syoko@city.soma.lg.jp



相馬市HP

相馬市観光協会

〒975-0042 相馬市中村字北町55-1

TEL 0244-35-3300

FAX 0244-35-3210

E-mail kanko@bb.soma.or.jp



相馬市観光協会HP